

株式会社ミュージックバード

第81回番組審議会 議事録

1. 開催日時 2020年8月20日(木) 14時00分~15時30分
2. 開催場所 ※ZOOMによるリモート開催
3. 出席者
 - <番組審議会委員>
 - 福本 ゆみ 委員
 - 中西 健夫 委員
 - 近藤 良 委員
 - 堀 主知ロバート 委員
 - 麻倉 怜士 委員
 - <ミュージックバード>

代表取締役社長	雄谷 英一
常務取締役	仁平 成彦
取締役技師長	土屋 充央
コンテンツ事業部	岩崎 育郎
コンテンツ事業部	関根 直子
コンテンツ事業部	椎名 楓
4. 議事内容
 - (1)各チャンネルの4月改編新番組
 - (2)番組試聴
 - (3)今後の施策について
5. 配布資料
 - (1)第81回番組審議会資料
 - (2)第80回番組審議会議事録
 - (3)Song List ハイライト記事(2020年4月~7月)

(1)各チャンネルの4月改編新番組

・121ch THE CLASSIC 「クラシック・レコードの世界」

放送日時： 4月4日スタート 毎週土曜 23:00～24:00 (翌週リピート)

「生演奏」とも「ハイレゾ」とも違うクラシックの楽しみ方、それは「レコード」。アナログならではの味わい深いクラシックの魅力を紹介。出演は、輸入レコード販売「バーレンプラッテ」の金子学、キング・インターナショナルの大川健。

・122ch THE JAZZ 「diskunion JazzTOKYO プレゼンツ・レコメンド・ニュー・ディスク」

放送日時： 3月30日スタート 毎週月～木 18:00～20:00 再放送＝日曜 8:00～16:00

国内随一の品揃えを誇るジャズ専門店「diskunion JazzTOKYO」が輸入盤を中心におすすめの新譜、話題盤を紹介します。出演は同店の山田竜輝。

・124ch THE AUDIO 「麻倉怜士のハイレゾ真剣勝負」

放送日時： 4月5日スタート 毎月第一日曜 11:00～13:00 (翌週以降リピート)

ハイレゾに興味があって「いい曲」を「いい音」で聴きたい。でも差し当たって「何を聴いたらいいのかなあ」なんて思っている方々に、おすすめのハイレゾ音源をオール・ジャンルでご紹介します。出演は、麻倉怜士(オーディオ&ヴィジュアル評論)・祐成秀信(イーオンキョーミュージック)。

・124ch THE AUDIO 「懐かしのレコード」

放送日時： 4月5日スタート 毎月第一日曜 13:00～14:00 (翌週以降リピート)

クラシック、ジャズ、映画のサントラ・・・あなたにとって思い出のレコードは？初めて買った1枚、それとも・・・？スタッフが誠心誠意で探します！リクエスト募集中、オンエア後はレコードをプレゼントします。

MB:4月に改編した番組は4つ。ジャズチャンネル、クラシックチャンネル、オーディオチャンネルの3つでいずれも特徴は音源そのものに注目する番組でコンテンツの価値を説明づけるものになっている。

MB:懐かしのレコードは以前からリクエストがあった企画で今回トライすることとなった。

委員:自分が出演している番組では、コロナになり5月6日が自宅で録音、7月にスタジオで収録を行った。スタジオのほうが音源もきちんとハイレゾのものを使って聴けるというのはすごく良い。

(2)番組試聴

① 番組名:『World Live Selection』 ムジークフェライン 2019-20 ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ウィーン交響楽団、ウィーン楽友協会合唱団

放送チャンネル:MUSIC BIRD 121ch 「THE CLASSIC」

放送日時:2020年7月19日(日)12:00～14:00 《再放送=(土)20:00～22:00》

出演:奥田佳道(音楽評論家)

内容:1870年設立の「黄金のホール」があるウィーン・フィルの本拠地ムジークフェライン。現在も毎年約800ものコンサートが開催されています。本シリーズは「ムジークフェライン音楽祭」から豪華なコンサートを厳選して放送。この日は50歳の若さで急逝したマルチェロ・ヴィオッティの息子として1990年スイスに生まれたロレンツォ・ヴィオッティが登場。

委員:ムジークフェラインは本当に素晴らしい番組。演奏の内容も素晴らしい。ライブであり、その上音質が素晴らしい。このコロナでライブ演奏が全部ストップしているが、音楽家からいうと不本意だが、これからはこういうライブの楽しみ方が新しいアフターコロナの主流になってもおかしくない。

MB:映像があれば会場の雰囲気や演奏者の表情などがわかるが、音声だけの場合は頭のなかに映像が描かれる。音楽を深く集中して聴けるのではないか。

委員:盲学校と聾学校の両方の学校で教鞭をとった方に、耳が聞こえない子と目が見えない子では、目が見えなくとも耳が聞こえている子たちの方が落ち着いていると聞いたことがある。私も音楽は映像付きよりも音だけのほうが、

聞きやすい。画面にとらわれて身動きせずに聞く音、何かをしながら聞き流していたとしてもこのようなものだと、逆に耳が奪われてしまう。私は「絶対音楽は高音質で音楽を聴いたほうがより集中できる」と前から思っている。以前のこの会議で意見の出た、アーティストたちが個人的に作ったものを MB の高音質で流すのは有りだと思った。

委員:自分が小さいホールだが経営するようになってから音に対しての感度が上がった。以前、あまり気にしなかった時は、YouTube でいいと思うことがあったが、ホールで聴く音が懐かしい。音質に対するこだわりは、ずっと続いていく。いわゆるインターネットで出せないクオリティを出していくのがいいと思う。

ライトなユーザーにはインターネットでいいと思うが、ディープなユーザーには、音質を追求した番組っていうのは大切だと思う。ただ、間口はやっぱりひろげたいと思う。説明(解説)があると違うので、音楽をより楽しませてあげられるプレゼンテーションがあるとよりいいと思う。

委員:奥田佳道氏の解説は今のリスナーに対してはいいと思うが、長期でポストコロナが続くって考えた場合に、視聴者を拡大していきたいという意向があるのなら、ライト版をネットで流し、その時の解説は少し目線を下げる必要がある。今の人(現契約者)から考えると、「そんなのわかっている」というようなことを混ぜるかもしれない。

MB:クラシックチャンネルの番組は教条主義っぽく感じる。学校の先生の話の聞いているような感じがあって、今ご指摘いただいた音楽や説明を描写をするということがあまりない。事実だけを淡々と語り、描写への誘導をしていない番組が多いのかもしれない。伝える側の表現力、語彙、感性がラジオの場合も重要。奥田氏は、NHKFMでもレギュラーをお持ちの定評のある方だがその点についてもうすこし研究していかなければならないと思う。

委員:このような企画は大変素晴らしい。ライブを聴くというのは音楽の原点。ハイレゾ音源やレコード、パッケージを聴くのもいいが、一期一会の演奏で世界最高の演奏を聴くというのは局の一つのステータスになると思う。ORF(オーストリア国営放送)の提供だからウィーンのものだが、企画としては「世界のオーケストラシリーズ」というような形で生の演奏を聴くことができるともっと楽しい。

奥田氏はオーディオの方ではないが、今回はムジークフェライン黄金のホールで録音されているので、このホールの残響音とか周波数的特性などの説明があればもっと面白いと思う。

オーディオ的というと素晴らしい音でとれているので「世界のホールシリーズ」のような切り口でいろいろやって本物の音楽は、MB で聴くといい、というのがひとつのオーセンティックな企画だと思う。

基本的に今はライブで聴けない。ライブの醍醐味を MB の高音質で聴けるというものが一つのアイデンティティになってくるといいと思う。その場合は(高級な)ウィーンフィルのライブだけでなく、ロンドンの小さなウイグマホールの演奏を聞けるということもいいと思う。ロンドンに行っても聞けないというぜいたくなものが家庭で聴ける。ライブに行かなかきゃいけなかったことが家でできる。この時代だからこそ MB のライブチャンネルを通じて様々なアーティストのライブ感覚のあるものが聞きたい。MB は音楽とオーディオが基本だと思う。オーディオ的な切り口でなにかがあると面白いなと思った。

委員:クラシックをなかなか聞かないライトユーザーの意見としていうと、例えば MB で日本人の演者(アーティスト)がやるようなオーディオの番組ってできないかと思う。音楽に従事している人の雇用が全部ストップしている。社会貢献的なニュアンスも含めて、いまこそクラシックでずっとやってきてる方が大変だからこそ、「我々はこういう音を奏でている」と発信できるようなものを小さくてもいいから、ライブ録音を発信できる番組とか、MB でできるとすごくいいなと思った。

MB:ライブ録音できる場所をつくることは課題と思っている。TFM の中にレコーディングスタジオがあり、そこを使ってジャズのオリジナルライブの録音の番組をやっていたのだが、コロナの影響でレコーディング以外の用途が増え、そのスタジオが使えなくなった。コロナが落ち着けばそこで是非再開して、雇用とまでは行かないが新しいコンテンツを生み出す場にしていきたいなと思っている。

委員:コロナ籠りの時だからか、2 時間聴いてすごく音が気持ちいい。ただ相変わらず広まっていないような気がしている。こんな素晴らしい番組があるのにもったいない。メルマガも登録しているが、内容がそっけないように感じる。そして MB の Twitter のフォロワーは今 1000 人いるが、奥田さんは 2000 人。奥田さんのほうが多いからもったいない。出演者はみなそれなりにフォロワーがいらっしゃる。もう少し、お互いが協力しあって MB を宣伝出来たらいい。YouTube のチャンネルもお持ちで今 500 人くらいですが、相互フォローしている逸品館は 8000 人。協力して宣伝するといいいのかなと思う。毎回素晴らしい番組があるので、もっと知らしめてほしい。即時性のある宣

伝ができればいいのではないか。

MB:実はできればインターネットのサービスにも出たいと思っている。特殊なアンテナとチューナーがないと聞くことができないメディアは広がりようがないと思っている。人々がすでに持っているもので聴けないと即時性の発信ができない。そこを考えると我々としては個人事業としては衛星をやりながら、同じものをインターネットでも流していくというサービスも考えないといけないということを課題として持っている。ただ、現時点では衛星としては高いクオリティで非常にいい音で放送できているということもあるので、ライトなユーザーにはインターネット、ディープなユーザーにはアンテナとチューナーをという二段構えができるといいのかと思っているので、実現できればご指摘いただいたことにつながると思う。ぜひそこは目指したいと思っている。

委員:若い人はすべてスマホで済ませている。スマホが今彼らのメインメディアになっているのでこれはぜひやるべきだと思う。全部の番組をやる必要はなくて、音質だってそれほど良くななくてもいいが、ちゃんと聴けて、もしその気があったら発展の道(衛星)というような展開があるといい。

MB:検討したい。許諾や著作権の問題があるが、そこに入っていけないとなかなか物事が進まない。

委員:このままだと年齢層も高いようなので、どうやって若い人を取り組むかが課題かと思う。

MB:そこも含めて検討したい。

② 番組名:『真空管アンプ一本勝負!』

放送チャンネル:MUSIC BIRD 124ch 「THE AUDIO」

放送日時:2020年7月10日(金)9:00~10:00 《再放送=(金)20:00~21:00》

出演:大橋 慎(サンバレーオーディオ)

内容:特別編:サンバレー試聴室より出前録音!スピーカーの前にマイクを立ててバーチャル試聴一本勝負。今回は愛知県刈谷市のサンバレーオーディオ・ショールームから放送。試聴室のスピーカーの前にマイクを立て、ナマ録しながら進めて行く。

委員:大橋さんが音を言語化し、解説することがとても上手い。真空管というマニアックな話を私が聞いても楽しめた。こんなに音が違うのかと違いがわかりすぎておもしろかった。真空管といっても興味のない人もいらっしゃると思うので、スマホで聴いている人にも楽しめるような懐かしのレコードとか、以前の映画音楽の番組等も同じくらいの分量であるといいと思う。

MB:大橋さんは真空管の世界でスーパースター的な方で、オーディオイベントなどをやると皆さんが大橋さんのところに集まってくる。人の心をつかむのが上手い方。トークも上手いのですが、音のプレゼンテーションがすごく上手い。再生音にもこだわっている。我々に聴かせるためにすごく苦労された。それが音のリアリティに出てきているのではないかと思う。今回リモート録音の中でも、一番成功した事例ではないかと思っている。

委員:友人にも真空管に詳しい人が多くいるが、今まで聞いてきた中で大変わかりやすかった。真空管を自慢する友達が懐かしのレコードを持ち合って聴きながら話す会をやっている。驚いたのは懐かしのレコードの中にだいたい同じものを持ってくる。逆に音楽人が懐かしのレコードを持ち寄って番組にするのもいいと思う。著名人が「このレコードが面白い」というと面白い。オーディオマニアとレコードマニアをかけるっていうのも面白いかもしれない。

委員:真空管にもともとなじみがなかった。ハイクオリティでとても難しい機械だとおもっていたが、説明などがわかりやすかったので番組を聴いてそんなに難しく考えなくてもいいのかなと思えた。

委員:真空管アンプを持っている。詳しいことを知らなかったから番組を聴いて思わぬ収穫がありました。

MB:真空管には倍音の効果がある。それがハイレゾに近ければ近いほど、いい音が鳴るそうだ。

委員:今日の1本目のライブと共通しているものがあつた。ライブ感がすごくよかった。人間がスピーカーで音楽を聴いているというような感覚でコンサートを聴くような感覚で聴いたときに違いがでることがわかってよかった。ライブ感覚で聴ける番組って重要だと思った。

オーディオであってもライブ感覚が得られる番組っていうのはどんどん出てくるといいと思う。コロナの影響もあってイベントがなくなったからYouTubeのチャンネルを開設したがYouTubeって音がわからない。オーディオでもライブ感覚で聴けるといいと思う。

MB:オーディオチャンネルというマニアックで初心者には難しい番組がならんでおりますが、一個一個聞くとオーディオに詳しくなくても楽しめたりするが、今後我々が広げていけるかがずっと課題でしたので、今後もさらに研究をしていきたいと思う。

◇その他の施策

【最上級チューナー C-T5000CS 発売】

2020年7月16日にフラグシップモデル「C-T5000CS」を限定生産30台で発売しました。DAC回路にESS社製ES9038PROを採用し、サンプリングレートを48KHzから96KHz、192KHzにアップサンプリングを可能にしました。ハイエンドオーディオユーザーの期待に応える、最上級機種に相応しい彫の深い高音質を実現しています。

<製品概要>(2020年7月16日発売) ※30台限定

■型番:C-T5000CS

■音声仕様:MPEG1 layerII

■出力端子:アナログRCA端子1系統、アナログXLR端子1系統、同軸デジタル端子1系統、光(角型)デジタル端子(TOSリンク)1系統

■外形寸法:幅430mm×高さ80mm×奥行325mm

■重量:7.7kg

■参考販売価格:298,000円(税別)

委員:MQAの今後の動向は？

MB:以前ご評価いただいたときは遅延(ディレイ)が長かった。(改良した)エンコーダーがイギリスから先日やっと届き、音質を保ちながら我々の放送品質に合わせるランニングテストを行っている。できれば来年の早々には放送にのせていきたいと取り組んでいる。

以上